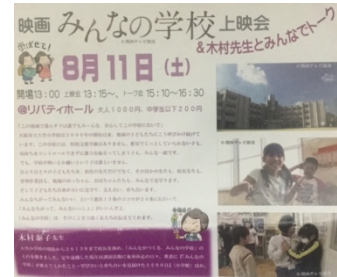


映画「みんなの学校」と木村先生

写真のイベントが「リバティおおさか」であった。主催は「あすわか大阪」、明日の自由を守る若手弁護士の会大阪支部である。

チラシから—「この地域で暮らす子は誰でもみ～んな、安心してこの学校において」大阪市立大空小学校は 2006 年の開校以来、地域の子どもたちにこう呼びかけ続けています。この学校には、特別支援学級はありません。教室でじっとしてられない子も、気持ちをコントロールできずに暴力を振るってしまう子も、みんな一緒です。でも、学校が怖いとか嫌いという子は誰もいません。ひとりひとりの子どもたちを、担任の先生だけでなく、そのほかの先生も、校長先生も、管理作業員も地域のおっちゃん、おばちゃんたちも、みんなで見守ります。そして子どもたち自身が互いに見守り、支え合い、育ち合います。みんなちがってみんないい、という憲法 13 条のココロが 26 条に伝わって、「みんなちがって、みんないっしょ」がいいんだよ。「みんなの学校」は、そのことを力強く私たちに伝えてくれます。



写真下は講師の木村泰子先生。チラシから一大空小学校の開校から 2015 年まで校長を務め、「みんながつくる、みんなの学校」の土台を築きました。定年退職した現在は東奔西走の日々。著書に『「みんなの学校」が教えてくれたこと～学び合いと育ち合いを見届けた 3290 日』（小学館）ほか。

壇上に登場すると、すかさず最前列の児童からプレゼントが手渡される。やさしくお礼を言いながら受け取る木村先生。写真のような姿勢で、映画の校長先生を思わせる口調で、予定の時間を大幅に超えてトークを続けた。大空小学校が開校するまでの曲折、映画で登場する生徒たちの「その後」なども聴けて、時間を忘れるほどだった。



いまから 1 年半ほど前、名古屋市立大のさくら講堂で「みんなの学校」上映会&講演会を行った。林京香さんファミリーや地域の皆さんと大学との共催。私も実行委員として、企画を準備し司会の「大役」をつとめさせてもらった。このときは落ち着いて映画を見ておれなかったが、映像から感動が伝わってきた。

今回、じっくり映画を観て、木村先生のあついトークに耳を傾け、大空小学校についての理解が深まった。人と人が学び合える学校、パブリックな地域の学校が「みんなの学校」。映画の全国学力調査の場面など質問しようと身構えていたが、教師志望の若者との質疑で時間が来てしまった。木村先生と若者との「やりとり」からも学ぶことが多かった。

(2018 年 8 月 15 日)